

Asahi

私たちは、地域と地球の
環境に配慮した事業者です



®環境省

エコアクション21

認証番号 0000571

2022 年度

(2022年1月1日~12月31日)

環境経営レポート



Asahi アサヒビールモルト株式会社

2023年3月23日 発行

<目次>	2P
1. 会社の概要	3P
2. 私たちの仕事	3P
3. 環境経営方針	4P
4. 環境管理組織図	5P
5. 環境経営計画	6P
6. 環境経営目標と実績	7P
7. 化学物質使用量の適正管理	8P
8. 自らが生産・販売・提供する製品の環境性能の 向上及びサービスの提供	8P
9. 環境保全活動の実施	9P
10. 教育・訓練の実施	10P
11. 環境関連法規の遵守状況と違反の有無	11P
12. 環境コミュニケーションの実施 (外部からの苦情等の受付結果)	11P
13. 環境経営計画の評価と今後の対応	12P
①2023年度の環境経営目標	13P
②代表者による全体の評価と見直し・指示	14P

1. 会社の概要

- 名 称 アサヒビールモルト株式会社
- 代表者名 代表取締役社長 高瀬 勉
- 所 在 地 本社・野洲工場 滋賀県野洲市三上2311
小金井工場 栃木県下野市小金井18
- 創 業 1846年(弘化3年)
- 創 立 1920年(大正9年)2月11日
- 環境管理責任者 上田 努
- 連絡先 Tel:077(587)1027 Fax:077(586)0946
- 事業の規模

資本金 9,000万円

従業員 47名(含むパート)(発行日現在)

売上金額 1,570百万円(2022年度)

事業場

	本社・野洲工場	小金井工場
敷地面積	36,637㎡	27,462㎡
事務所	343㎡	149㎡
製麦設備	—	2,000㎡
加工設備	993㎡	—
倉庫	7,513㎡	7,748㎡

2. 私たちの仕事

ビールの原料である「麦芽」の製造や「麦茶」の製造・販売等を行っております。



麦芽



麦茶

3. 環境経営方針

＜アサヒグループ環境ビジョン 2050 に準拠すること。また、関連する法律、規則及び協定を順守し環境負荷の削減に取り組んでいくことの2つを基に設定しております＞

■ 基本理念

麦芽や麦茶は大麦という「自然の恵み」からつくられています。アサヒビールモルトは「自然の恵み」を享受しながら事業を営む企業として、その「自然の恵み」を次世代に引き継ぐために「事業を通じた持続可能な社会への貢献」を果たします。

■ 行動方針

- ・環境関連法規制や当社が約束したことを順守します。
- ・以下について環境経営目標を定め実施計画を立て継続的改善に取り組みます。

1. 二酸化炭素排出量の削減：

省エネを図り、地球環境に負荷を与える CO₂ 排出量削減に努めます。

2. 廃棄物排出量(食品廃棄物は除く)の削減：

生産効率の向上を図り、廃棄物排出量の削減に努めます。

3. 食品廃棄物等の発生抑制及び食品循環資源の再生利用等の実施：

食品廃棄物などの100%リサイクルを継続し、発生抑制に努めます。

4. 水使用量の削減：

私たちにとって特に貴重な「水」を大切にし、水使用量の削減に努めます。

5. 化学物質の適正管理：

環境に負荷を与える可能性がある化学物質を適正に管理します。

6. 自らが生産・販売・提供する製品の環境性能の向上及びサービスの提供：

商品を開発、改良するときには環境や健康に配慮します。

2005年4月01日制定

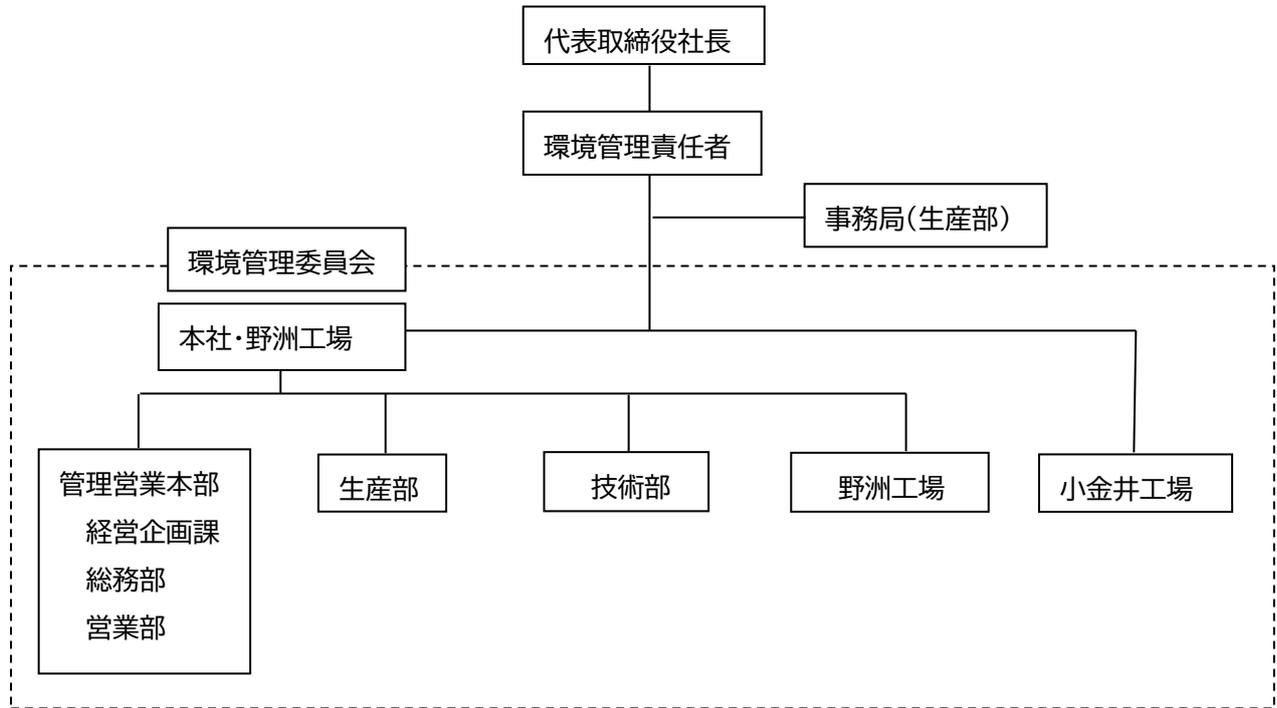
2020年3月28日改定

代表取締役社長 高瀬 勉

アサヒグループ環境ビジョン 2050 は以下でご確認ください

<https://www.asahigroup-holdings.com/sustainability/environment/>

4. 環境管理組織図



● 役割・責任・権限

<p>社長</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 環境経営に関する統括 ● 環境管理の実施及び管理に必要な資源の提供 ● 環境管理責任者の任命 ● 環境経営方針の設定、見直し ● 代表者による全体の評価と見直し・指示 ● 経営における課題とチャンスの取りまとめ <p>環境管理責任者</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 環境経営システムの構築、運用、管理 ● 環境関連法規制等の遵守状況のチェック ● 環境経営目標の設定、方針・目標の従業員への周知 ● 環境経営計画および実績の確認・評価 ● 問題点の是正、予防措置に対する指示と改善や見直しに必要な処置 ● 環境経営計画の取組結果の代表者への報告 ● 環境関連の外部コミュニケーションの窓口 	<p>環境管理事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 環境経営システム運営のすべての事務 ● 環境への負荷および取組の自己チェック ● 環境関連法規制等の取りまとめ ● 環境経営計画の作成および実施 ● 文書および記録の管理保管 ● 従業員に対する教育訓練の実施 <p>環境管理委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自部門における環境経営システムの実施 ● 自部門の従業員に対する環境訓練の実施 ● 自部門の環境経営計画の実施 ● 環境関連手順書の作成、運用管理 ● 緊急事態への対応のための手順書作成、テスト、訓練の実施及び記録 ● 自部門の問題点の発見、是正、予防措置 <p>全従業員</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 環境経営方針の理解と環境への取組の重要性を自覚 ● 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加
---	---

5. 環境経営計画

項目	主な環境活動計画
二酸化炭素排出量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・各設備のエアリー漏れ点検及び修理の実施 ・不要時の照明 OFF の徹底 ・ロースター設備の昼休憩時間帯の連続運転 ・ロースター設備の脱臭装置停止条件の見直し ・事務棟窓の遮熱ブラインドの活用 ・エアコンフィルター、集塵機の定期清掃 ・事務棟エアコンの温度設定の見直し ・倉庫棟の照明をLED器具へ更新 ・電力デマンド契約値の管理 ・品質保証機器の運転時間の見直し ・工程排水を直接下水道放流に変更
廃棄物排出量(食品廃棄物は除く)の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・分別の徹底と再資源化100%継続
食品廃棄物等の発生抑制及び食品循環資源の再生利用等の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・再資源化100%継続 ・製粉、自動充填機の運転管理
水使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・浸麦・発芽工程の水量調整
化学物質の適正管理	<ul style="list-style-type: none"> ・試薬の適正管理
自らが生産・販売・提供する製品の環境性能の向上及びサービスの提供	<ul style="list-style-type: none"> ・新商品開発にあたり、包装資材の見直しによる環境負荷の低減
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・環境ボランティアの参加 ・工場緑化の環境維持(樹木管理) ・漏洩訓練の実施 ・避難訓練の実施 ・環境関連法規制の遵守状況の確認 ・ペットボトルのエコキャップ活動 ・グリーン購入の推進

6. 環境経営目標と実績

当社全体

項目	単位	2022年 目標	実績				評価
			2020年	2021年	2022年	結果	
製造量	総量(t)	—	10,271	12,735	13,206	前年比 4%増	-
CO ₂ 排出量	総量(t-CO ₂)	—	1,530	1,852	1,901	前年比 3%増	○
	製造量原単位 (kg-CO ₂ /t)	151 kg-CO ₂ /t	149	145	144	前年比 1%減	
(電力)	総量(千 kWh)	電力、都市ガスは CO ₂ 排出量構成要素、原単位前年比 1%減	1,177	1,403	1,384	前年比 1%減	○
	製造量原単位 (kWh/t)		115	110	105	前年比 5%減	
(都市ガス)	総量(千 m ³)	1%減	428	522	548	前年比 5%増	×
	製造量原単位 (m ³ /t)		42	41	42	前年比 2%増	
取水量	総量(m ³)	取水原単位 4.5m ³ /t以内	36,149	45,070	44,487	前年比 1%減	○
	製造量原単位 (m ³ /t)		3.5	3.5	3.4	前年比 3%減	
廃棄物 排出量 (食品廃棄物は除く)	総量(t)	前年比 1%減 再資源化100%	22.8 100%	20.3 100%	7.9 100%	前年比 61%減 100%達成	○
食品 廃棄物	総量(t)	前年比 1%減 再資源化100%	334 100%	357 100%	393 100%	前年比 10%増 100%達成	×
一般 廃棄物	総量(t)	前年比 1%減	1.3	0.9	0.6	前年比 33%減	○

※電力の CO₂ 排出係数は、各年度の経年比較のため各工場下記の各電力会社の 2019 年度の数値を使用しました。

2019 年度の数値: 2017 年度実績値に基づく調整後の排出係数。

- ・野洲工場: 1 月～3 月、関西電力⇒0.418t-CO₂/kWh、4 月～12 月、アール・エル・エス・エヌ⇒0.596t-CO₂/kWh
- ・小金井工場: 東京電力⇒0.462t-CO₂/kWh

- 本年も野洲工場および小金井工場の電力会社は、CO₂ 排出係数「ゼロ」の再生エネルギー会社を採用しました。そのため、2022 年度の実際の CO₂ 排出量は 1,299t-CO₂ となり製造量原単位は 93 kg-CO₂/t になります。2019 年度電力の CO₂ 排出係数を使用した数値より 35%削減しています。
- CO₂ 削減については、新型コロナウイルスの感染拡大の影響もありましたが、製造量製造数量の増加に伴い排出総量として前年比 3%増となりました。製造量原単位については目標 151 kg-CO₂/t に対して 144 kg-CO₂/t となり目標達成し、前年比では 1%減となりました。主な要

因は、エネルギー原単位の低い淡色麦芽の製造比率が増加したことによるものです。

- 取水量原単位については、目標 4.5m³/t に対して 3.4m³/t となり目標達成しました。前年比では 3%減となりました。主な要因は、小金井工場の浸麦工程での水使用量を引き続き最適化したためです。
- 廃棄物については、廃棄物排出量(食品廃棄物を除く)の総量は前年比 61%減となりました。主な要因は、金属くずの廃棄量が減少したためです。
- 食品廃棄物については、排出量の総量は前年比 10%増となりました。主な要因は、製造数量の増加に伴い、飼料となる麦根の量が増加したためです。
食品廃棄物の393tの内訳は、肥料(30t)、飼料(363t)です。食品リサイクル法の定期報告書を2022年6月29日に報告済みです。
食品廃棄物発生量の全てを再生利用(肥料・飼料)しており、再資源化率 100%を維持しています。
- 一般廃棄物については、総量は前年比 33%減となりました。主な要因は、分析作業で使用した麦芽粕や食堂で沸かした麦茶粕を植物性残渣(再資源化)へ変更したことにより、廃棄量が減少したためです。

7. 化学物質使用量の適正管理

当社は製造工程で化学物質を使用することはありません。しかし、分析等では試薬(化学物質)を少量ですが使用しますので、そうした化学物質につきましては、PRTRを作成し適正に管理しています。

(届出書は不要ではありますが、PRTR制度を利用しています)

	対象化学物質 使用実績(kg)	備考
2020年	0.42	—
2021年	0.37	前年比 12%減
2022年	0.51	前年比 38%増

*分析回数に応じて使用量が増減します。

8. 自らが生産・販売・提供する製品の環境性能の向上及びサービスの提供

商品開発に当たり、設計段階から環境にやさしい包装資材を選定するなど、環境や健康に配慮しております。

9. 環境保全活動の実施

4/28 本社・野洲工場の周辺の除草作業を行いました。



6/3 野洲市のごみゼロ大作戦は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、規模を縮小した活動となり本社・野洲工場周辺の除草作業をアサヒロジ社と共同で行いました。



6/10・10/31 栃木県の小金井工場でも工場周辺のごみ拾いを実施しました。



<その他環境関連取組項目>

- ・グリーン購入の推進(グリーン購入比率 77%)。
- ・エコキャップ活動(ペットボトルキャップの分別回収)。

野洲工場⇒重量:8 kg、個数:3,440 個、CO₂ 排出削減量:25 kg、ワチ:4.0 人分

小金井工場⇒重量:8 kg、個数:3,440 個、CO₂ 排出削減量:25 kg、ワチ:4.0 人分

10. 教育・訓練の実施

12/8 都市ガスなどの漏洩を想定した環境漏洩防止訓練を実施しました。当日は、ガス等の配管の場所を皆で確認し、バルブなど漏洩防止のキーポイントも確認しました。(野洲工場)



8/31 都市ガス漏洩時の対処方法の確認を実施しました。(小金井工場)



〈その他教育訓練〉

12/8 火災発生時に適正な行動をとるため、加工棟からの火災を想定して全従業員は各指定の場所へ避難できるように避難訓練を行いました。また、消火器を使用しての訓練も行いました。(野洲工場)



11/18 アサヒグループ食品社と合同で、火災を想定した避難訓練を行いました。(小金井工場)



11. 環境関連法規の遵守状況と違反の有無

環境関連法規制等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無（野洲・小金井両工場分）

適用法令等	遵守状況	評価
大気汚染防止法 水質汚濁防止法 騒音規制法 振動規制法	代表者変更時の届出済 各規制値は、それぞれ監視、測定の結果、規制値内 騒音苦情についての申し入れがあったため、改善のため 機器更新を進めている。 特定施設の新設なし	○
下水道法	野洲市下水道条例の下水道排水規制値内	○
廃棄物処理法	廃棄物保管場所での掲示済 契約書・帳簿・管理票写し・維持管理記録の保存実施 水銀使用製品産業廃棄物(照明器具、蛍光灯)の 適正管理	○
野洲市環境保全対策書	大気、臭気測定結果報告書、提出済 臭気測定の結果、規制値の超過が判明し脱臭装置の 点検を実施し触媒の更新を予定。 振動測定結果報告書、提出済 騒音測定結果報告書、提出済	○
食品リサイクル法	定期報告書、提出済	○
フロン排出抑制法	簡易点検・定期点検の実施及び記録	○
容器包装リサイクル法	再商品化委託契約済	○
毒物および劇物取締法	施錠・受払管理記録	○

*環境関連法規の違反及び関連する訴訟はありません。

12. 環境コミュニケーションの実施

<地域社会との共生>

近江富士団地連合会自治会の方と野洲市役所環境課の方が当社に見学に来られ意見交換を行っていましたが、昨年引き続き中止となりました。

<外部からの苦情等の受付結果>

麦芽原料をサイロ棟に受入れ作業中、バケットコンベアの機器から異音が発生し、近隣住民の方から騒音苦情のお申し出がありました。(野洲工場)

応急対策を行い敷地境界外で騒音測定を実施し、異常がないことを確認しました。現在、機器更新を計画しています。

13. 環境経営計画の評価と今後の対応

2022年度の評価

項目	主な環境活動計画	評価	次年度
二酸化炭素排出量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・各設備のエアリーク点検及び修理の実施 ・不要時の照明 OFF の徹底 ・ロースター設備の昼休憩時間帯の連続運転 ・ロースター設備の脱臭装置停止条件の見直し ・事務棟窓の遮熱ブラインドの活用 ・エアコンフィルター、集塵機の定期清掃 ・事務棟エアコンの温度設定の見直し ・倉庫棟の照明をLED器具へ更新 ・電力デマンド契約値の管理 ・品質保証機器の運転時間の見直し ・工程排水を直接下水道放流に変更 	○	継続
廃棄物排出量(食品廃棄物は除く)の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・分別の徹底と再資源化100%継続。 	○	継続
食品廃棄物等の発生抑制及び食品循環資源の再生利用等の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・再資源化100%継続。 ・製粉、自動充填機の運転管理 	○	継続
水使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・浸麦・発芽工程の水量調整 	○	継続
化学物質の適正管理	<ul style="list-style-type: none"> ・試薬の適正管理 	○	継続
自らが生産・販売・提供する製品の環境性能の向上及びサービスの提供	<ul style="list-style-type: none"> ・新商品開発にあたり、包装資材の見直しによる環境負荷の低減 	○	継続
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・環境ボランティアの参加 ・工場緑化の環境維持(樹木管理) ・漏洩訓練の実施 ・避難訓練の実施 ・環境関連法規制の遵守状況の確認 ・ペットボトルのエコキャップ活動 ・グリーン購入の推進 	○	継続

① 2023 年度の環境経営目標

当社はアサヒグループ環境ビジョン 2050 に準拠した活動を継続展開していきます。
 環境活動は地道に、着実に実施することで成果を生むものと考えておりますので、省エネを始め、環境に優しい活動を今後も着実に進めていきたいと思っております。
 エコアクション 21 の要求事項に真摯に取り組むことで、当社の環境活動のレベルを上げていきます。
 具体的な目標は以下のとおりです。

2023 年度 環境経営目標

2023 年 1 月 31 日制定

環境方針	テーマ	環境目標 (2023 年度)	中期環境目標 (2025 年度)
1. CO ₂ 排出量の削減	CO ₂ など地球環境に負荷を与える物質の排出量削減に努めます	CO ₂ 排出量 製造量原単位 150kg-CO ₂ /t ※以下	CO ₂ 排出量 製造量原単位 147kg-CO ₂ /t ※以下
2. 廃棄物排出量(食品廃棄物は除く)の削減	廃棄物排出量の削減に努めます	廃棄物排出量 前年比 1%減	廃棄物排出量 2020 年度比 3%減
3. 食品廃棄物等の発生抑制及び食品循環資源の再利用等の実施	食品廃棄物等の 100% リサイクルを継続し発生抑制に努めます	食品廃棄物排出量 前年比 1%減 再資源化 100%	食品廃棄物排出量 2020 年度比 3%減 再資源化 100%
4. 水使用量の削減	私たちにとって特に貴重な「水」を大切に、水使用量の削減に努めます	取水原単位 4.3m ³ /t以下	取水原単位 4.1m ³ /t以下
5. 化学物質の適正管理	化学物質を適正に管理します	化学物質を適正に管理する	化学物質を適正に管理する
6. 自らが生産・販売・提供する製品の環境性能の向上及びサービスの改善	商品を開発、改良するときには環境や健康に配慮します	商品を開発、改良するときには環境や健康に配慮する	商品を開発、改良するときには環境や健康に配慮する

※各原単位目標は野洲、小金井両工場の加重平均です。

②代表者による全体の評価と見直し・指示

2023年2月1日

- ・環境経営方針 変更なし
- ・環境経営目標・計画 変更あり 2023年度の販売予算に伴う目標の再設定
- ・実施体制他 変更なし
- ・[目標及び活動計画の達成状況]
2023年度の販売予算に伴う環境経営目標を見直し。
- ・[環境経営システムの実施状況]
システムの変更の必要性なし
- ・[法規制等の遵守状況]
良好

<代表者コメント>

エコアクション21に関しては、全社目標に基づき部門ごとに環境目標を定め、環境管理委員会や省エネルギー委員会で各施策の進捗状況を管理する仕組みもできており、着実に成果を出しています。

省エネルギー活動では、ユーティリティーの原単位管理に基づく工程改善、各建物の照LE化、コンプレッサーエアーの漏れ点検と修理、電力デマンド値管理、エアコンフィルターの清掃などを各部署で実施しました。

社会環境活動では、野洲・小金井両工場の場内緑地の維持・整備、工場周辺の美化活動、地元の野洲市主催のごみゼロ大作戦への参加、グリーン購入、エコキャップ活動などに継続して取り組みました。

排ガス・臭気・騒音・振動の測定と市への報告、PRTR 報告作成、法的に必要な届出や報告の確実な履行といった法令順守活動も計画的に行いました。

ESG(環境・社会・ガバナンス)投資、SDGs(持続可能な開発目標)など、会社経営においても法令順守、環境保全、社会貢献といった取り組みはますます重要視されています。

当社としても、持続可能な社会の実現に向け環境に優しい活動を今後も着実に進めていきたいと思えます。

以上